

2025年2月5日 Vol.238

### M&A 型成長指向企業の IPO

令和7年のIPOが2月3日の名証ネクストのバルコス（7790）を皮切りとしてスタート。本日はグロース市場に技術承継機構（319A）が上場し実質的に東証IPOの第1号となりますので、投資家の関心が高まり堅調な初値形成となりました。公開価格2000円に対して初値は2700円（+35%）、その後下振れする場面も見られましたが底堅い展開となり、本日は3200円のストップ高で終わりました。2018年の設立以来、中小モノづくり企業のM&Aを連続して実行しながら成長する企業として市場人気を高めたものと見られます。

東京IPOサイト内の開示情報で事業内容をご確認頂けますが、簡単にサマリーを示しますと、製造業の技術を次世代につなぐというミッションを掲げており、2018年の設立以来、累計検討数1607名、実績譲受企業数10社、現在の全従業員数523名の陣容となっています。2023年12月期売上高93億円、取得費用含めた調整後EBITDA17億円、同当期利益8.2億円となっています。前12月期の業績は現時点でまだ発表されていませんが、上場時の開示資料では売上高120億円、調整後EBITDA21億円、同当期利益10億円としています。

譲り受けした最大の企業は日本とタイに拠点を置く豊島（としま）製作所で、同社は超電導デバイスや全固体リチウムイオン電池材料などの薄膜材料の生産を手掛けるほか各種自動車部品等の製造を行っており、23.12末従業員数は225名、売上規模は52億円程度、24.12期の3Qまでの売上累計は35億円となっております。そのほかの9社は概ね従業員数が50名以下、年商も5億円程度ですが、23年の天鳥（あまとり）が年商14億円、エアクラフトジャパンが同10億円超えの規模、更に24年のティオックも10億円以上の規模と拡大基調。350名ものM&Aアドバイザー（日本M&Aセンター、M&Aキャピタルパートナーズ、ストライク、M&A総研、レコフなど）や金融機関、公的機関、会計士等を通じて案件が持ち込まれ、検討を重ねてきたとしており、今後も成長意欲を示しています。再譲渡については明確に実施しない方針を示しており、単なる企業の売り買いとは一線を画し、譲り受けた企業の連携を図り、相互連携でシナジー効果を図るなどバリューアップに主眼を置いた展開を図ろうとしています。

同社のようなM&A型成長を目指す企業としてはモノづくり企業を対象にしたセレンディップ（7318・今期予想営業8億円、時価総額76億円）、日創プロニティ（3440・同12.8億円、同59億円）、食品関連企業を対象にしたヨシムラFHD（2884・同27億円、同241億円）、アミューズメント系企業を対象にしたGENDA（9166・同70億円、同2217億円）などがあり比較対象となります。GENDAが急成長中で市場評価を高めておりますが、同社の上場時資料にも比較対象企業として連続的な企業買収で成長するタイプの企業としてヨシムラFHDやジャパンエレベーターサービスなどIPO後に高いパフォーマンスを示した企業とともに掲げており、それが本日のIPO初日の人気につながったものと思われます。本日の終値3200円で時価総額は276億円。今12月期業績見通しとともに今後の株価の行方に関心が高まりそうです。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）